

グループディスカッション 症例検討

- ◆ 患者：Aさん，50歳代前半，女性
- ◆ 診断名：右乳がん【T2，N1，M0，stage II B，ER(-)PgR(-)，HER2(3+)，Ki-67(50%)】
- ◆ 身体的特徴：中肉中背の体型，Cカップ
- ◆ 職業：デパートの婦人服売り場で販売員としてパート勤め
- ◆ 家族構成：夫，社会人と大学生の息子の4人暮らし
- ◆ 現病歴：3か月前から右乳房のしこりを自覚し病院受診，右乳房D領域乳頭から2cm下方に4cm大の腫瘤があり，精査の結果乳がんの診断。
- ◆ 経過：

【がん告知から外来治療中の経過】

夫は仕事の都合で来院できず，Aさんは1人で告知を受けた。「まさかがんだったなんて信じられない。」と落胆した様子だったが，「抗がん剤で小さくすれば傷も小さく済みますよね。」と話し術前化学療法を選択した。そのため外来化学療法室でビノレルビン（ナベルビン®）4コース+トラスツマブ（ハーセプチン®），パクリタキセル（タキソール®）12週+トラスツマブ（ハーセプチン®）を行った。治療の結果，化学療法の副作用で末梢神経障害（Glade2:手足のしびれはあるが仕事ができ日常生活には支障がない程度）が残るものの腫瘍は2cm程度に縮小し，主治医から「予定通り手術を行います，手術の場合，乳房温存術もしくは乳房切除術どちらも可能です」と説明された。Aさんは，乳房温存術を選択され，診断から半年後に手術を行った。

【手術当日から翌日の経過】

手術室から病室へ帰室する途中，右乳房に手を当て「良かった，胸が膨らんでいる」と安堵の表情を示した。手術当日の経過は順調だったが，手術翌日，医師の診察後に泣いている姿があった。看護師が声をかけると「先生が出て行った後，鏡で見てみたら胸が全然ない。少しでも胸が残せる方法だと考えて頑張って抗がん剤治療も受けてきたのに，こんな状態になってしまって辛い。」と話された。

【検討内容】

- ① Aさんはがん治療の過程でボディイメージにどのような変容を抱えているのでしょうか。
- ② Aさんに術前・術後の関わりとして，どのような支援ができるのでしょうか。